

# お金とのかかわり方を考えよう

持続可能な社会に結びつくお金の流れを生み出すことは、金融機関の大きな役割であると同時に、お金が経済・社会に与える影響への理解を高めるための教育も重要です。私たちは一人ひとりのお金が意思を持つことの大切さを伝えていきます。

## 経済・金融教育への取組み

青少年時代から生きた経済にかかわり、知ることは、他人や社会とのかかわり方を知り、社会に影響を及ぼす経済活動や金融があることを学ぶことにつながります。

大和証券グループでは、自らの専門知識やノウハウを活かし、さまざまな教育機関やNPOと協力しながら、実践体験型の小・中・高校生向けの経済教育や、教育現場で実施するプログラムの支援を行なっています。

### 経済・金融教育 これまでの実績

タイトル	内容	開始時期	延べ人数
スチューデント・カンパニー・プログラム(SCP)※支援	高校生が実際に近い会社経営を体験する、会社経営体験プログラム	2003年9月	174
ファイナンス・パーク(FP)※支援	家計のやりくりを通して社会や経済の仕組みを学ぶ生活設計体験学習施設	2005年6月	23,936
「小・中・高校教員のためのグローバルリーダーシップ・フォーラム」※後援	グローバル経済の現状に触れ、教育のあり方をともに考える活動	2001年7月	3,182
日本経済教育協議会(CEE-Japan)の運営支援	教員のための経済教育参加型経済テキスト「人生は選択の連続だ!」の普及	2009年1月	577

※ 青少年への経済教育活動を展開する世界最大の非営利法人ジュニア・アチーブメントのプログラム

## お金とのかかわり・金融の哲学を伝える

私たちの日常生活において、金融は非常に身近なもので、日々、銀行や証券会社、保険会社、公的年金などを通じて金融とかわっています。しかし預金や保険、株式や年金準備金など、金融機関に預けたお金が、どのように運用されているのかわりにかけている人は少ないのではないのでしょうか。

当社グループでは、お金を投資する人、預金する人が意思を持つことで、お金が社会や企業を動かす力になることを知ってもらうために多様な啓発活動を行なっています。大学、高校などでの講義や、さまざまな主体が開催する社会への発信の場を通して、金融リテラシーや、金融の哲学を伝え、SRIへの理解を広げています。

2010年度は、学生をはじめ、区民大学講座や、大阪青年会議所など、成人に向けても、持続可能な社会と、意思のあるお金についての講義など、積極的な金融啓発活動を行いました。

### 金融啓発活動 2010年度の実績の一例

実施日	対象	テーマなど
5月14日	厚生労働省・雇用研究会	SRIの実態
11月5日	大阪青年会議所	お金の未来について
11月10日	一橋大学	CSRと資金提供者
11月12日	区民大学講座	持続可能な社会とシニアの社会的責任
11月17日	堺高等学校	お金の未来について

## 未来メッセで、お金の未来について語る

2010年11月4日～6日に大阪国際会議場(大阪市)にて開催された国際青年会議所(JCI)主催の「未来メッセ“The Blue Planet” Future Expo for The Blue Planet」にて、インパクト・インベストメントを紹介するブースを出展しました。また「社会的責任投資—持続可能なお金の流れをつくるイノベーション」と題したパネルディスカッションに、大和証券グループ本社 広報部 CSR担当部長の河口真理子がモデレータ、大和証券 商品企画部 次長の山本聡がパネラーとして参加し、「お金の未来について」を語りました。参加者からは、「社会を変えるお金の使い方があることを初めて知った」「子どもの頃にこのような話を聞いていたら、もっと有効なお金の使い方を考えたかもしれない」などの感想をいただき、当社グループは啓発活動の重要性を改めて実感しました。



「未来メッセ」でインパクト・インベストメントを紹介

## 「社会的責任に関する円卓会議」に運営委員として参加

「社会的責任に関する円卓会議」は、多様な主体が対等な立場で参加し、政府だけでは解決できない社会の課題に対し、協働して取り組むことを目的として、2008年に設立されました。事業者団体、消費者団体、労働組合、NPO・NGO、政府などが参加するこの会議に金融セクター代表のひとりとして、大和証券投資信託委託 エクイティ運用部 シニア・ファンドマネージャーの菊池勝也が参画し、運営委員を担当しています（2011年3月現在）。「社会的責任に関す

る円卓会議」では、最初の2年で、安全・安心で持続可能な社会を実現するために解決することが必要な課題についての議論が行われました。今後は、「安全・安心で持続可能な未来へ向けての協働戦略」を策定し、「人を育む基盤の整備」、「ともに生きる社会の形成」、「地球規模の課題解決への参画」、「持続可能な地域づくり」という4つの課題について具体的な取組みを進める計画となっています。

## ソーシャルビジネスカレッジ開設

特定の社会課題の解決のために事業を運営し、かつ持続的に収益も上げていくソーシャルビジネスが注目されています。しかし、ソーシャルビジネスに対する社会の認知度はまだ低く、その実態は広く知られていないのが現状です。ソーシャルビジネスに関して、持続的なビジネスモデルとファイナンスのあり方を議論する場を提供することは、大和証券グループにとって大きな意義のある活動です。具体的には、2010年10月から、学生や社会人を対象とした「ソーシャルビジネスカレッジ」を開設しています。

ソーシャルビジネスに対して、ネットを通じてファイナンスを提供する次世代金融ビジネスを手がけるミュージックセキュリティーズ株式会社と協働で、カレッジを開催し、webサイトを通じて、講義の内容（議事録とケーススタディレポート）を発信しています。

<http://www.daiwa-grp.jp/csr/citizen/support/college/backnumber.html>

2010年12月7日に開催した第2回のカレッジでは、株式会社マザーハウス 代表取締役社長の山口絵理子氏を講師にお招きました。山口氏からは、国際援助の届かない途上国バンングラディッシュで、先進国にも受け入れられるバッグをつくり、ブランドを確立しようと奔走した様子が赤裸々に語られ、会

場からは多くの共感とビジネスモデルに対するリアルな質問が寄せられ、議論が盛り上がりました。

今後も、独自のビジネスモデルを展開するソーシャルビジネスに焦点をあて、2012年9月までの2年間にわたり累計12回以上のカレッジ開催を予定しています。

- |     |             |                             |
|-----|-------------|-----------------------------|
| 第1回 | 2010年10月28日 | 講師:株式会社HASUNA 代表取締役 白木 夏子氏  |
| 第2回 | 2010年12月7日  | 講師:株式会社マザーハウス 代表取締役 山口 絵理子氏 |
| 第3回 | 2011年2月14日  | 講師:株式会社トビムシ 代表取締役 竹本 吉輝氏    |



第1回ソーシャルビジネスカレッジの様子